

2025年8月28日

中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ  
2025年度前期活動報告書

**抄録**

今学期中のセッション数は、375件（前年同期554件）、稼働率は46.64%（前年同期59.16%）と前年と比較し、減少した（I-3）。セッション形式の内訳は、学期中に実施した総セッション数のうち、対面は197件（前年同期296件）、オンラインは178件（前年同期258件）であった。

今学期見られた特徴として、レポート課題作成時の生成系AIの利用増加が挙げられる。「中央大学における『生成系AI』についての基本的な考え」に沿って生成系AIを利用する学生がいる一方で、生成系AIが出力した文章をそのまま利用したと思われる文章をセッションに持ち込む学生も見られた。また、留学生に関しては、母国語で書いた文章を生成系AIで日本語に翻訳するという使い方をしている者が一定数見られた。課題作成時の生成系AIの利用が、稼働率の低下に一定の影響を及ぼしていると考えられる。

セッション数は大きく減少したものの、日本人大学院生の利用に関しては今期22件、（前年同期2件）と増加した。増加した理由として、春季休暇中に実施した「学振道場」によりライティング・ラボで専門性の高い文章でも検討できるということが日本人院生に周知されたことが挙げられる。学部・大学院の年次によりニーズも異なるため、それぞれのニーズに合わせたイベントを実施し、ラボでできることの周知をしていきたい。

今後は、「ワンポイント講座」や「学振道場」など学術的文章執筆を支援するためのイベント、高大接続のための支援など、活動の幅を広げることを検討していく。

以 上

## はじめに

2025 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期において特筆すべき所見を述べる。

## I 開室状況と利用実績

### I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間:2025 年 4 月 9 日から 2024 年 7 月 28 日までの月～金曜日

開室時間:月曜日・木曜日 10:50～17:40

火曜日・水曜日 14:10～17:40

金曜日 11:50～15:50

開室日数:75 日(前年同期 74 日)

設置セッション数<sup>1</sup>:819 コマ(前年同期 950 コマ)

アカデミック・ライティング部門長:尹智鉉

スーパーバイザー(SV):中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー(ASV):林雅子

アシスタント・スーパーバイザー(ASV):松井雄志

シニアチューター(ST):7名

チューター:6名

### I-2 受付方針(2025 年度前期)

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類(対象文章かそれ以外か)に基づく。

#### 1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿(スライド、口頭用)、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

#### 2. 空きがある場合につき、受け付ける文章

奨学金応募書類に含まれる志望動機書、留学志望書、公務員試験練習課題

日本語翻訳(授業の課題のみ)

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

#### 3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章(キャリアセンターへ案内)、メールや手紙の文章

英語の文章<sup>2</sup>、公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

<sup>1</sup> 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めない。

<sup>2</sup> 英語論文を書く前段階の日本語による構想などに関する相談は受け付けている。

### I-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数:375 件（前年同期 554 件）（うち対面 197 件、オンライン 178 件）  
セッション稼働率:46.64%（前年同期 59.16%）<sup>3</sup>

図1に、過去5年のセッション稼働率推移を、表1に過去5年の利用数他の推移を示した。

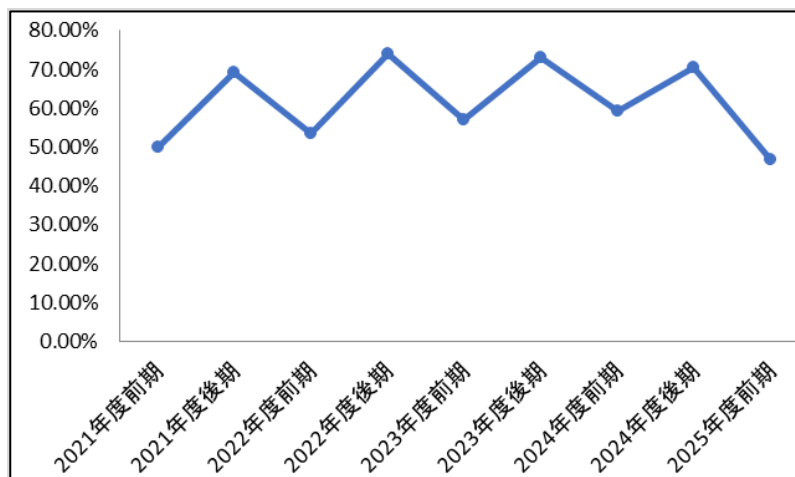


図1 ライティング・ラボ学期別稼働率の推移

表1 利用数、設置セッション数、セッション稼働率、利用数前年同期比の推移

年度・期	前期・後期	利用数	開室日数	設置数	稼働率	利用数前年同期比
2021年度	前期	425	70	852	49.88%	329.46%
	後期	635	72	916	69.32%	178.87%
2022年度	前期	408	73	771	53.44%	96%
	後期	698	75	954	74.11%	109.92%
2023年度	前期	441	75	783	57.09%	108.09%
	後期	772	75	1067	73.10%	110.60%
2024年度	前期	554	75	950	59.16%	125.62%
	後期	787	74	1137	70.36%	101.94%
2025年度	前期	375	74	819	46.64%	67.69%

25年度前期のセッションの稼働実態として、以下に、週毎の設置数・稼働数の推移（図2）、週毎の稼働率の推移（図3）週別・曜日別のセッション数と稼働率の表（表2、表3）を示す。

<sup>3</sup> SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めない。また、No Show（予約はしたものの来室せず）については、実施扱いで稼働率を算出した。実際のセッションは375回であるが、稼働率の計算に関しては、セッション数は382回としている。

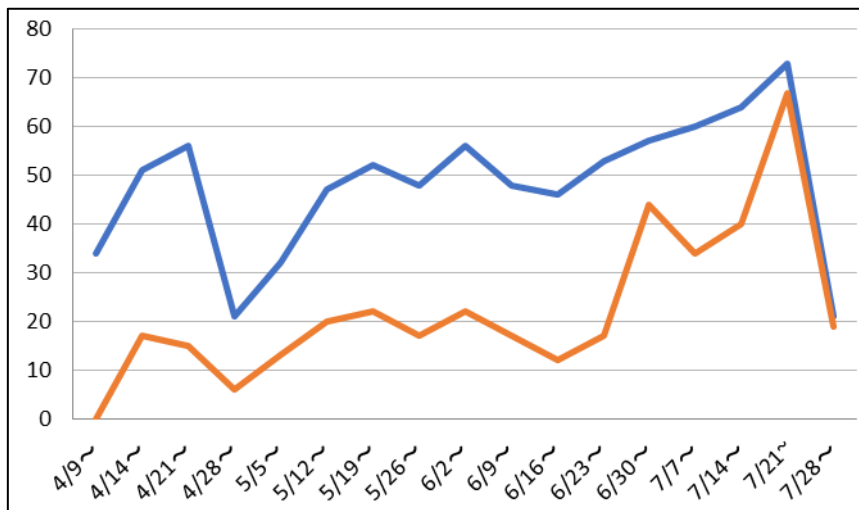


図2 2025年度前期週別セッション設置数・稼働数の推移  
 (青色:設置数、茶:稼働数)

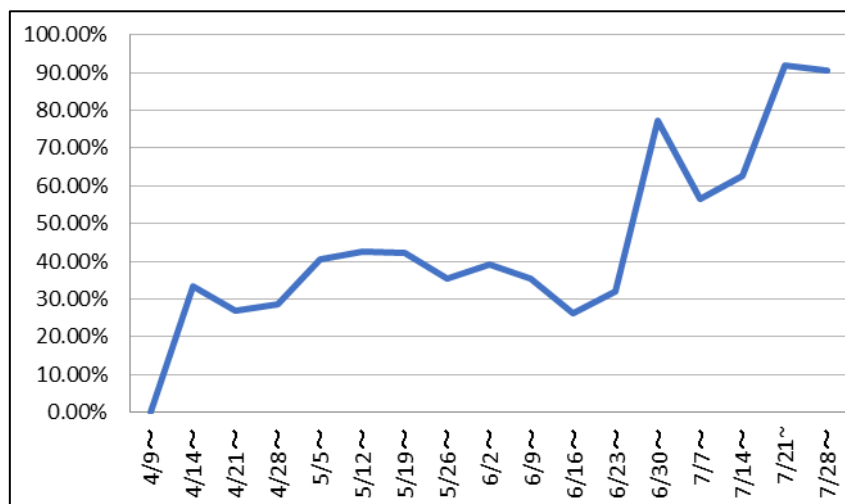


図3 2025年度前期週別セッション稼働率の推移

表 2 週別・曜日別セッション数・稼働率(4月第2週～6月第1週)

		4/9～	4/14～	4/21～	4/28～	5/5～	5/12～	5/19～	5/26～	6/2～
月	設置数		12	12	13		11	14	8	12
	稼働数		5	5	6		3	8	0	1
	稼働率		41.67%	41.67%	46.15%		27.27%	57.14%	0.00%	8.33%
火	設置数		9	9	8		7	8	8	13
	稼働数		3	2	0		3	1	3	10
	稼働率		33.33%	22.22%	0.00%		42.86%	12.50%	37.50%	76.92%
水	設置数	12	12	12		11	12	14	12	12
	稼働数	0	2	4		6	5	5	2	1
	稼働率	0.00%	16.67%	33.33%		54.55%	41.67%	35.71%	16.67%	8.33%
木	設置数	12	7	13		13	8	9	11	12
	稼働数	0	2	2		4	5	5	6	6
	稼働率	0.00%	28.57%	15.38%		30.77%	62.50%	55.56%	54.55%	50.00%
金	設置数	10	11	10		8	9	7	9	7
	稼働数	0	5	2		3	4	3	6	4
	稼働率	0.00%	45.45%	20.00%		37.50%	44.44%	42.86%	66.67%	57.14%
計	設置数	34	51	56	21	32	47	52	48	56
	稼働数	0	17	15	6	13	20	22	17	22
	稼働率	0.00%	33.33%	26.79%	28.57%	40.63%	42.55%	42.31%	35.42%	39.29%

表 3 週別・曜日別セッション数・稼働率(6月第2週～7月第5週)

		6/9～	6/16～	6/23～	6/30～	7/7～	7/14～	7/21～	7/28～	前期全体
月	設置数	12	12	15	9	13	14	16	21	194
	稼働数	9	6	7	8	9	10	13	19	109
	稼働率	75.00%	50.00%	46.67%	88.89%	69.23%	71.43%	81.25%	90.48%	56.19%
火	設置数	5	4	8	13	10	10	11		123
	稼働数	3	1	1	13	7	6	11		64
	稼働率	60.00%	25.00%	12.50%	100.00%	70.00%	60.00%	100.00%		52.03%
水	設置数	8	12	12	10	12	14	17		182
	稼働数	0	1	5	8	4	7	17		67
	稼働率	0.00%	8.33%	41.67%	80.00%	33.33%	50.00%	100.00%		36.81%
木	設置数	13	11	12	15	14	16	16		182
	稼働数	3	2	1	9	7	11	13		76
	稼働率	23.08%	18.18%	8.33%	60.00%	50.00%	68.75%	81.25%		41.76%
金	設置数	10	7	6	10	11	10	13		138
	稼働数	2	2	3	6	7	6	13		66
	稼働率	20.00%	28.57%	50.00%	60.00%	63.64%	60.00%	100.00%		47.83%
計	設置数	48	46	53	57	60	64	73	21	819
	稼働数	17	12	17	44	34	40	67	19	382
	稼働率	35.42%	26.09%	32.08%	77.19%	56.67%	62.50%	91.78%	90.48%	46.64%

【所見】

前年と比較すると、セッション数は180件減少となった。前年度と比べ7月第2週までの利用数は減少した。一方で、7月21日からの週は前年より20件増加した。前年と比較すると、課題の提出締め切り間際になってからセッションを利用する学生が増加したと思われる。早めのライティング・ラボ利用を広報時に推奨していき、繁忙期のセッション数緩和に努めたい。

## I-4 利用学生の内訳

\*利用学生数(延べ)<sup>4</sup> 合計 375 件(前年同期 554 件)

\*初来室数 148 名(前年同期 162 名)。そのうち留学生の初来室は 19 名(前年同期 19 名)

\*利用学生の所属と学年を示した表(表 4、表 5、表 6、表 7)以下に示す。なお、表の( )内は前年度同期の人数を示している。

表 4 利用した学部生の所属と学年

学部全体(所属/学年)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年～	計
法学部	24(38)	8(6)	7(13)	1(28)	3(18)	43(103)
経済学部	2(11)	5(6)	3(24)	10(3)	0(0)	20(44)
商学部	2(5)	4(1)	5(1)	16(28)	0(2)	27(37)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)
文学部	71(54)	24(25)	1(22)	47(61)	4(0)	147(162)
総合政策学部	11(6)	12(12)	14(0)	3(10)	0(0)	40(28)
国際経営学部	2(18)	1(10)	4(0)	11(2)	0(19)	18(49)
国際情報学部	2(10)	1(0)	0(1)	0(0)	0(0)	3(11)
法学部通信教育課程						2(2)
聴講生						0(0)
科目等履修生						0(0)
計	114(142)	55(60)	34(61)	88(133)	7(39)	300(437)

表 5 利用した学部留学生の所属と学年( )内は前年同期

学部留学生(所属/学年)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年～	計
法学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
経済学部	1(0)	1(0)	0(0)	0(2)	0(0)	2(2)
商学部	0(0)	0(0)	1(0)	0(18)	0(0)	1(18)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)
文学部	4(1)	0(0)	0(0)	1(2)	0(0)	5(3)
総合政策学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
国際経営学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(18)	0(18)
国際情報学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
法学部通信教育課程						0(0)
聴講生						0(0)
科目等履修生						0(0)
計	5(1)	1(0)	1(0)	1(23)	0(18)	8(42)

<sup>4</sup> 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

表 6 利用した大学院生の所属と課程

大学院全体(所属/課程)	前期課程	後期課程	計
法学研究科	5(27)	16(11)	21(38)
経済学研究科	3(3)	5(0)	8(3)
商学研究科	16(24)	7(0)	23(24)
理工学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	7(10)	16(30)	23(40)
総合政策／公共政策研究科	0(7)	0(0)	0(7)
ビジネススクール	0(0)	0(5)	0(5)
計	31(71)	44(46)	75(117)

表 7 利用した大学院留学生の所属と課程

大学院留学生(所属/課程)	前期課程	後期課程	計
法学研究科	5(27)	16(11)	21(38)
経済学研究科	3(3)	0(0)	3(3)
商学研究科	16(23)	7(0)	23(23)
理工学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	6(10)	0(29)	6(39)
総合政策／公共政策研究科	0(7)	0(0)	0(7)
ビジネススクール	0(0)	0(0)	0(0)
計	30(70)	23(40)	53(110)

#### I-5 相談文章の種類 ( )内は留学生の人数

授業のレポート	211件(25件)
授業の発表資料	24件(3件)
研究計画書	19件(5件)
卒業論文	48件(1件)
修士論文	5件(5件)
博士論文	0件(0件)
投稿論文・研究ノート	16件(10件)
学外での発表資料	6件(6件)
学振	16件(2件)
その他	30件(5件)

#### 【所見】

利用数が減少した中で、注目したいのは大学院生の利用数である。前年度は日本人大学院生の利用は2件のみであったが、今期は22件<sup>5</sup>と増加した。学振の申請書に関してセッションを利用した学生のうち日本人大学院生が14件だったことから、春期休暇中に実施した「学振道場」<sup>6</sup>の影響があったと考えられる。

<sup>5</sup> 2025年度の大学院生利用総数計75件-大学院留学生利用数53件

<sup>6</sup>学振道場についてはⅢ-1-3を参照。

## I-6 利用学生のアンケート

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では紙面および Google フォーム、オンラインは Google フォームのみ用いて実施した。今期は対面では 178 通、オンラインでは 54 通を回収した。これまでオンラインでのアンケート回収率が低く、今期はセッションの終わりに学生にアンケートの回答をするように声掛けをしていた。その結果、前年（2024 年）度前期の回収率が 14.0% だったのに対し、今期は 30.3% まで向上した。アンケートの質問項目と集計結果について、以下に示していく。

### ライティング・ラボを知ったきっかけ

回答の重複を避けるため、ライティング・ラボを知ったきっかけについては、予約フォームにて初回利用の学生に限定してたずねた。回答件数と割合を表8にまとめた。

表 8 ライティング・ラボを知ったきっかけ（複数回答可）

きっかけ	全体の件数 (%)	うち留学生の件数 (%)
ラボの HP/SNS	21 (11.0)	2 (6.9)
授業で知った/先生にすすめられた	105 (55.0)	14 (48.3)
友人/先輩/後輩にすすめられた	13 (6.8)	3 (10.3)
レポートの書き方資料で知った	11 (5.8)	1 (3.4)
学内のポスターやパンフレットで知った	26 (13.6)	4 (13.8)
ラボのイベント(講座など)で知った	6 (3.1)	1 (3.4)
入学時のガイダンス/資料で知った	9 (4.7)	4 (13.8)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)
計	191 (100.0)	29 (100.0)

### 【所見】

もっとも多いラボを知ったきっかけは、これまでと同じく「授業で知った/先生にすすめられた」であった。今後も教員への宣伝を継続し連携をはかることで、学生の書く力を向上させていきたい。また、これまででは友人など知り合いにすすめられた回答が次いで多かったが、今年度は全体では「学内のポスターやパンフレットで知った」「ラボの

HP/SNS」で知ったという回答が多かった。今年度は新学期が始まってすぐにポスターを掲示するほか、茗荷谷キャンパスのサイネージにも掲載しており、学生の目に留まるタイミングが多かったと考えられる。また、留学生の回答では「入学時のガイダンス/資料で知った」という回答も多く見られた。留学生へのガイダンスの際は、どんな時にラボを利用したらいいのか具体例を示したり、実際に利用していた留学生の感想を紹介したりしていた。そのため、留学生にもラボがどんなところかイメージが付きやすく、利用に至ったのかもしれない。今後もホームページや SNS の更新、ポスターの掲示など多様な広報活動を行い、学生にラボを知ってもらうこと、利用までのハードルを下げていくことを目指していく。

### セッションは有益であったか<sup>7</sup>

ここからはセッション後のアンケートの回答をまとめていく。比較として、表には前年(2024年)度前期の回答も併記した。まず、セッションが有益であったかどうかに対する回答人数と割合を、セッション形式別に表9にまとめた。

表9 セッションは有益であったか

回答項目	今年度の回答人数(%)		前年度の回答人数(%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
有益ではなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
あまり有益ではなかった	0 (0.0)	2 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
どちらともいえない	1 (0.6)	0 (0.0)	3 (1.4)	0 (0.0)
有益であった	31 (17.4)	13 (24.1)	26 (11.9)	4 (11.1)
とても有益であった	146 (82.0)	39 (72.2)	189 (86.7)	32 (88.9)
計	178 (100.0)	54 (100.0)	218 (100.0)	36 (100.0)

### セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述(任意)でたずねた。前期は初めてレポートを作成するためどのように書けばいいのかわからないといった相談が多かった。そのため理由でも、チューターとのやり取りを通して自分の書きたいことが整理でき、方向性が定まったといった内容がよく述べられていた。以下に回答を一部抜粋してまとめていく。

セッションについて、対面とオンラインともに8割以上の学生が「有益であった」「とても有益であった」と回答していた。とくに対面セッションではほとんどの学生が高い満足感を示している。しかし、

<sup>7</sup> 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益であった」「とても有益であった」の5段階評価。

オンラインでは残念ながら「あまり有益ではなかった」との回答が 2 件見られた。1 件目は締め切り間際の学生で、時間的に余裕がなく、学生がひどく焦っている状態であった。2 件目は学生側の機器のトラブルでマイクが使えず、チャット欄を用いて文章でのやり取りを行っていたため、学生の検討したい観点がチューターに伝わりにくくなっていた。オンラインセッションは画面をオフにした状態で行うため、元々対面セッションに比べ意思疎通が難しい面がある。今回の場合、どちらも学生側がセッションを受ける体制が十分に整っていない状態であり、円滑なコミュニケーションがより取りづらい状況であったと考えられる。

セッションが有益であると感じた理由から、オンラインセッションにおいても、学生はチューターとのやり取りを重要視していることが分かる。例えば、「どう思ったかと会話形式で尋ねられることで、自分で打ち込む時はずっとなやんでいるだけだったが、なんとか言語化しようと試みることができ、そうすることでアイデアを整理することができたから。」といったように、チューターとの会話を通して学生の書く力が向上していることが示唆されている。また、締め切り間際の学生も、「チューターの方もとても優しく対応してくださり、質問に答えると思考が整理されていく感じがしてとても助かりました。」と回答していた。ラボのセッションはチューターに一方向的に添削してもらうものではなく、チューターとのコミュニケーションを通してより良いレポートや論文を自分で書き上げていくものなのだと学生に意識させることが重要であると言える。

そのために、例えば締め切り間際の学生の場合、チューターは学生の検討したい観点や提出に必要な最低条件を満たす観点を優先的に検討し、学生に安心感を持たせることを求められる。また、学生側に機器のトラブル等起きた場合は、SV や ASV に指示を仰いだり、学生に Webex に入り直してもらったりするといった対応をすると良いだろう。まずは学生が落ち着いてチューターとコミュニケーションを取ることができるよう、場を整えていくことを目指していかなくてはならない。

また、学生側にも、セッションを落ち着いて受けられるよう働きかけていくべきだろう。具体的には、フィードバックシートを用いてセッションの観点を見せ、次回からは早めに来室するように促す。オンラインセッションについて、Webex の入り方やトラブルが起きた際の対応など、あらかじめマニュアルをホームページなどに掲載しておくことで、スムーズな入室やトラブルの対処につながるだろう。より良いセッションを構築していくためには、チューターと学生双方の努力が必要だと言える。

### セッションの時間<sup>8</sup>

次に、セッションの時間についてどう感じたかについての回答人数と割合を表 10 に示した。

表 10 セッションの時間についてどう感じたか

回答項目	今年度の回答人数 (%)		前年度の回答人数 (%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
短かった	5 (2.8)	0 (0.0)	13 (6.0)	3 (8.3)
少し短かった	21 (11.8)	14 (25.9)	15 (6.9)	9 (25.0)

<sup>8</sup> 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の 5 段階評価。

妥当だった、ちょうどよかった	151 (84.8)	38 (70.4)	190 (87.2)	24 (66.7)
少し長かった	1 (0.6)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
長かった	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	178 (100.0)	54 (100.0)	218 (100.0)	36 (100.0)

#### 【所見】

対面・オンラインセッションともに大半の学生はセッション時間を妥当であると回答していた。とくにオンラインセッションについては、「短かった」という回答が今年度は0人であり、前年度に比べ妥当だと感じている割合が高まっていた。これは、去年の活動報告書を踏まえ、オンラインでセッションの充足感を高めるにはどうすればいいのか、チューター研修で検討した成果が出たと言えるだろう。

一方、対面セッションのほうは、「短かった」と回答する学生は前年度より減少したものの、「少し短かった」という回答は増加していた。今年は3月に学振道場を実施し、日本人の院生の利用が増えていた。チューターによっては通常より難易度の高いセッションを行うことになり、物足りないと感じる利用者もいたのではないかと。今後もチューター研修を通して、限られた時間でいかに学生が充足感を得られるようにしていくか検討していくことが求められる。

#### 対面セッションの良かった点と困った点

セッションの良かった点/困った点について、セッション形式別にたずね、表にまとめた。まず、表11に対面セッションの良かった点、表12に対面セッションで困った点の回答件数と割合を示した。

表11 対面セッションの良かった点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所がわかりやすかった	53 (15.0)	84 (17.8)
セッションブースなどの環境が整っていた	84 (23.7)	103 (21.8)
文章の共有が楽だった	84 (23.7)	111 (23.5)
チューターとの意思疎通がしやすかった	125 (35.3)	168 (35.5)
その他 <sup>9</sup>	4 (1.1)	3 (0.6)

<sup>9</sup> その他の回答として、「一緒に調べたりなどで幅が広がると感じたため」「直接お話しできてよかったです」「直接に对话できる」「パソコンの使い方まで教えていただいた」

回答なし	4 (1.1)	4 (0.8)
計	354 (100.0)	473 (100.0)

**表 12 対面セッションで困った点(複数回答可)**

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所がわかりにくかった	37 (20.6)	21 (9.6)
セッションブースなどの環境整備に問題がある	1 (0.6)	1 (0.5)
文章共有の準備に手間取った	11 (6.1)	12 (5.5)
チューターとの意思疎通が難しかった	2 (1.1)	11 (5.0)
その他 <sup>10</sup>	20 (11.1)	3 (1.4)
回答なし	109 (60.6)	170 (78.0)
計	180 (100.0)	218 (100.0)

### オンラインセッションの良かった点と困った点

次にオンラインセッションについて、表 13 にオンラインセッションの良かった点、表 14 にオンラインセッションで困った点の回答件数と割合を示した。

**表 13 オンラインセッションの良かった点(複数回答可)**

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
移動の手間が省けた	44 (45.8)	31 (53.4)
文章やデータの事前共有が楽だった	32 (33.3)	15 (25.9)

<sup>10</sup> その他の回答として、「アイデアが出てこなかった」「機材の使用法がわからなかった」、他はすべて「特になし」

対面とは異なり緊張せずに済んだ	14 (14.6)	10 (17.2)
特になし	4 (4.2)	1 (1.7)
その他 <sup>11</sup>	2 (2.1)	1 (1.7)
計	96 (100.0)	58 (100.0)

表 14 オンラインセッションで困った点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数 (%)	前年度の回答件数 (%)
場所の確保が難しかった	2 (3.5)	0 (0.0)
文章やデータの事前共有が大変だった	1 (1.8)	0 (0.0)
どのように操作すればよいのかわからず不安だった	5 (8.8)	4 (10.0)
チューターの声が聞き取りづらいつきがあった	6 (10.5)	4 (10.0)
特になし	42 (73.7)	32 (80.0)
その他 <sup>12</sup>	1 (1.8)	0 (0.0)
計	57 (100.0)	40 (100.0)

【所見】

対面セッションについて、前年度と同様に「チューターとの意思疎通がしやすかった」ことが良かった点として最も多く選択されおり、その他の回答でもチューターと直接話せることが挙げられていた。また、対面セッションで困った点として「チューターとの意思疎通が難しかった」を選択した割合は前年度に比べ減っていた。前年度の報告書で、「前期は初めて利用する学生も多いため、学生が話しやすい雰囲気づくりをしていくことが求められる」と述べていたが、今年度はそれが実践できていたと言えるだろう。

一方、対面セッションで困った点として、「場所がわかりにくかった」という回答が前年度よりかなり増えていた。こうした回答をした学生のうち、多くはラボを知ったきっかけとして「授業で知った／先生にすすめられた」と回答していた。前年度に引き続き春のポスターでマップを掲載し、X(旧 Twitter)でも道順を投稿していたが、恐らくそれら

<sup>11</sup> その他の回答として、「パソコンの画面が見やすかったです」「特になし」

<sup>12</sup> その他の回答として、「今日マイクに問題がありそうで、結構時間かかりました。」

を見ずに来室した学生が多かったのだろう。例えば予約完了メールにホームページのリンクを貼り付けるなど、ラボへの経路がホームページに掲載されていることが多くの学生に伝わるようにしていくと良いだろう。

オンラインセッションの良かった点として、前年度に比べ「文章やデータの事前共有が楽だった」が増えていた。チューター側が Webex の操作に慣れてきたことや、予約完了メールに文章の送り方について記載するようになったことが影響しているのではないかと。オンラインセッションで困った点は、前年度と同じく「チューターの声が聞き取りづらいつきがあった」「どのように操作すればよいかわからず不安だった」という回答が一定数あった。学生がチューターの声が聞き取れなかったり、操作が不明であったりしたとき、すぐにチューターに申し出られるよう、話しやすい雰囲気づくりをしていくことが求められる。

### より良いライティング・ラボにするためのアドバイス

最後に、より良いライティング・ラボにするためのアドバイスを自由記述（任意）で回答を求めた。

ラボに対する要望として、前年度と同様にセッション時間やセッション日の増加が複数の学生から挙げられていた。ただ、前年度と異なり要望が出ていたのは対面セッションの学生のみであった。これは、表 10 のセッション時間について対面セッションは前年度より「少し短かった」と回答した人数が多かった結果と一致している。後期は卒論や修論の提出時期になり、延長は前期よりも難しくなる。セッション開始時にセッションの観点を示したり、フィードバックシートで今回のセッションでどれだけ進んだのか、次回にどの観点を検討するか明示したりすることで、学生の充足感を上げることを目指していきたい。また、学期後も数日間利用したい旨が述べられていたが、今年度は夏期開室として要望通り学期後も数日間開室していた。学生に学期後もラボが開室されていることを周知していくことが求められる。

その他、ラボの利用に関する要望として、学振道場に関するものがあった。継続的な利用につなげていくためにも、研究助成課との連携や資料の配布や紹介などを今後積極的に行ってほしい。場所の案内について、フォレストゲートウェイ内は壁などに掲示をすることができない。ホームページにラボの経路が示されていることや、ポスターや X (旧 Twitter) にマップを掲載していることを学生に認知させていく必要があるだろう。

今回オンラインセッションのアンケートの回収率が上がったが、ラボに関する要望はほとんどみられず、多くの学生が回答なしであった。オンラインセッションは多摩キャンパス以外の学生も利用しているため、様々な学生がラボのセッションに対して満足していることが推測される。オンラインセッションで困った点で挙げられていたことを改善し、より多くの学生がラボを気軽に利用できるようにしていきたい。

対面セッションはオンラインセッションよりも「とても有益であった」と回答する学生が多かった一方、上述したような要望も多かった。ラボが有益であるからこそ、もっと良くしたいと感じる学生が増えたのかもしれない。対面セッションで困った点や上述の要望を踏まえ、どのセッション形式であっても十分なセッションが行えるようにしていきたい。

### I-7 春期開室

今年度も春季休業期間に開室を行った。セッションは SV、ASVI 名、及びチューター 2 名の合計 4 名で行った。なお、SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めない。

- ・開室日程：1 月 27、28 日、2 月 18、25 日、3 月 11、18、25 日（計 7 日間）
- ・開室時間：13:20～16:40
- ・設置セッション数：53 コマ

- ・初来室数 17名(留学生0名)
- ・実施セッション数:42件(うち対面9件、オンライン33件)
- ・セッション稼働率:81.13%

利用学生の所属と学年を示した表(表15、表16、表17)を以下に示す。なお、表の( )内は前年度同期の人数を示している。また、大学院生の利用は今年度も前年度同様留学生のみであった。

**表15 利用した学部生の所属と課程**

学部全体(所属/学年)	1年	2年	3年	4年	5年～	計
法学部	4(0)	1(2)	2(2)	0(0)	0(0)	7(4)
経済学部	0(0)	1(0)	3(0)	0(0)	0(0)	4(0)
商学部	0(0)	1(0)	0(0)	2(2)	0(0)	3(2)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学部	8(0)	1(0)	5(8)	3(3)	0(0)	17(11)
総合政策学部	3(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)
国際経営学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
国際情報学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(2)	0(0)	0(2)
法学部通信教育課程						3(0)
聴講生						0(0)
科目等履修生						0(0)
計	15(0)	4(3)	10(10)	5(7)	0(0)	37(22)

**表16 利用した学部留学生の所属と学年**

学部留学生(所属/学年)	1年	2年	3年	4年	5年～	計
法学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
経済学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
商学部	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
総合政策学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
国際経営学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
国際情報学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
法学部通信教育課程						0(0)
聴講生						0(0)
科目等履修生						0(0)
計	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)

表 17 利用した大学院留学生の所属と課程

大学院全体(所属/課程)	前期	後期	計
法学研究科	1(0)	0(0)	1(0)
経済学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
商学研究科	4(0)	0(0)	4(0)
理工学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
総合政策／公共政策研究科	0(2)	0(0)	0(2)
ビジネススクール	0(0)	0(0)	0(0)
計	5(2)	0(0)	5(2)

・相談文章の種類 ( )内は前年度の人数

授業のレポート	16件(1件)
授業の発表資料	2件(0件)
研究計画書	4件(10件)
卒業論文	10件(4件)
修士論文	0件(0件)
博士論文	0件(0件)
投稿論文・研究ノート	1件(0件)
その他	8件(6件)

・ライティング・ラボを知ったきっかけ ( )内は前年度の人数

ラボのHP/SNS	4件(1件)
授業で知った／先生にすすめられた	13件(2件)
友人／先輩／後輩にすすめられた	2件(1件)
レポートの書き方資料で知った	2件(1件)
学内のポスターやパンフレットで知った	2件(1件)

#### 【所見】

今期の春季休業期間の開室では、相談文章の多くが授業のレポートと卒業論文であった。特に春季休業期間の前半では授業のレポートの締め切り時期と重なるため、ライティング・ラボを必要とする声を聞くことができた。

前年度の春季休業中に利用数が増加したため、今年度は春季休業中にチューターも勤務し、設置セッション数を増やした。今学期の春期開室中の利用数は前年度よりさらに増加し、学生からの一定のニーズがあると考えられるため、今後も継続して開室を行っていく。特に、授業のレポートや卒論に対応するため、春期開室は1月末と2月前半の開室日を増やすことを検討する。

## II セッション以外の活動

### II-1 広報活動

#### II-1-1 出張ガイダンス及び見学ツアーの実施

今期は、出張ガイダンス7件、見学ツアー7件、合計14件実施した。今期は出張ガイダンスにあわせてワンポイント講座を希望するケースが2件あり、ガイダンス時に「問い

の立て方」または「パラグラフ・ライティング」について簡単なワンポイント講座を併せ実施した。

学生アンケートによると、ラボの初回利用のきっかけは「教員からの推奨」が半分以上を占める。そのため、教員からの依頼による出張ガイダンスや見学ツアーは、学生へのラボの周知につながる大きな機会になると考えられる。今学期も、実施予定期間を過ぎた後に教員からの申し込みがあり、柔軟に対応したケースがあった。今後も教員が出張ガイダンス/見学ツアーを利用しやすいように、実施時期や時間については柔軟に対応していきたい。ただし、今期も依頼があった出張ガイダンス時のワンポイント講座については、繁忙期の対応が難しいため、実施回数や期間を定めて実施していく予定である。

### II-1-2 ワンポイント講座の開催

広報活動の一環として、ワンポイント講座を開催した。今年度は、対面形式とオンライン形式で各1回ずつ実施し、学生が昼食を取りながら気軽に参加できるように昼休みの企画とした。

参加した学生の所属学部は様々であるが、学部1年生が多かった。対面の回の参加者数は、広報の一環として実施していることを鑑みると、物足りない人数であった。一方、オンライン開催回は比較すると参加者が多く、多摩キャンパス在籍の学生の参加も中には見られた。学生の参加しやすさを鑑み、今後もテーマ、開催方法などを検討したい。

日時：6月24日（火）12:40～13:10

6月27日（金）12:40～13:10

参加者数：1回目 14名 2回目 62名

アンケートは、各回終了時にGoogleフォームにて実施した。任意でアンケートに協力してもらい、40名より回収できた。

#### \*アンケート<sup>13</sup>結果：(合計40件)

##### 有益であったかどうか

そう思う	28件
ややそう思う	12件

アンケートからは、参加学生からの評価は高く、学びも多かったことが窺える。講座については、定期的に開催してほしい、期末レポート集中対策をしてほしいというような声があった。ライティング・ラボについては、認知度を上げるための周知の徹底や、オンラインセッションの受け方を案内してほしいという声があった。時期については、利用が少ない時期の利用促進につながるようワンポイント講座の時期などを検討してみたい。また、多摩キャンパス以外の学生にラボのオンラインでの活動に関する広報をしていく必要があるだろう。

### II-1-3 学振道場の開催

コロナ禍以降開催を見送っていた学振道場を、3月末にオンラインにて開催した。学振

---

<sup>13</sup> Googleフォームを用いて、講座の最後に実施した。

の申請書を書く際のスキルアップに加えて、大学院生のライティング・ラボ利用促進につながることも開催目的の一つとした。今年度、学振とSpringに採択されたチューター2名を中心に、その他のチューターも準備段階から参加することで、専門性の高い文章をセッションで検討するためのチューター自身のスキルアップも兼ねた。

参加者は16名であったが、そのうち4名は留学生であった。また、理工学研究科からの参加者も3名（全員日本人院生）がおり、さまざまな分野の院生が意見を交わす機会ともなった。

日時：2025年3月27日（木）14:00～16:00

参加者数：16名（日本人院生 12名 留学生院生 4名）

アンケートは、各回終了時にGoogleフォームにて実施した。任意でアンケートに協力してもらい、14名より回収できた。以下に、アンケート結果と参加学生からの主な回答例を示す。

#### \*アンケート結果：（合計14件）

##### 有益であったかどうか

そう思う	9件
ややそう思う	5件

参加学生は文学・法学・経済学・理工学研究科の院生であった。今回参加のなかった研究科への広報を検討していきたい。日頃は交流の乏しい他研究科の院生と交流し、意見交換をする機会として生かしていただきたい。また、今学期セッション利用総数は減少したものの、日本人院生の利用数は、学振応募時期を中心に増加した。専門性の高い文章に関しても、セッションにおけるフィードバックの観点からの検討が有効だということが「学振道場」を通して理解され、利用につながったと思われる。ターゲットを絞ったイベント開催もラボの周知に一定の効果があるといえる。

## II-2 研修

### II-2-1 学期中チューター全体研修

チューターのセッションスキルの向上を目的とし、前期は合計5回の全体研修をオンラインにて実施した。曜日毎に各1回の研修を担当し、シニアチューターを中心に、テーマ決め（表18）、事前課題や当日進行の検討、資料作成等を行った。

表18 2025年度前期チューター全体研修の概要

月日	担当	テーマ
5/8	金曜日チューター	新人お悩み相談室：引用と解釈
5/22	木曜日チューター	新人お悩み相談室：学生の主体性
6/5	月曜日チューター	対面・オンラインセッションの違い —セッション時間に対する学生の捉え方の差異に注目して—
6/19	火曜日チューター	大学ワンポイント講座のリハーサル—一文—義—
7/3	水曜日チューター	セッションにおけるクロージングの役割とは？

【所見】

特に新人チューターは、学生主体というラボの理念を守りながらも、学術的文章の観点をチューターから学生にどのように伝えていくかという点で悩みを抱えていた。今学期は、「学生主体」という言葉の意味を他のチューターと共に考え、ラボの基本理念に沿いながらも、それぞれの利用学生にあわせてセッションを柔軟に行っていくように、研修を進めた。

### II-2-3 新人チューター研修

今期就任の新人チューター1名はオンライン勤務のため、配属曜日のチューターを中心にオンラインにて、文章診断練習・セッション見学・セッション計画・模擬セッション実施など約2か月に渡り実施した。

今学期のセッション数減少により、新人チューターがセッションを担当する機会が減り、研修の進みが遅れるという問題が生じた。しかしながら、文章診断練習や模擬セッション実施を通常より数多く行えたため、丁寧な研修につながった。また、配属曜日のチューターが新人チューター研修にかかわる時間も増えたため、2年目以降のチューターの学びにもつながったと考えられる。

今後の課題として、セッション数の増減に影響されないように新人チューター研修を計画していく必要性が挙げられる。

【所見】

新人チューターの時給は一定のセッション数を担当した後に変更になる契約である。そのため、今学期のようにセッション数の大幅減少があると、担当セッション数が減り、時給変更時期が遅れる結果となる。今後は、セッション数の増減、また研修形式（オンラインか対面か）により、新人チューター研修のスケジュールに大きな影響が出ないように、新人チューター研修を計画したい。

### II-3 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載。

### II-4 中大附属高校ワークショップ開催

報告書を別添2に記載。

## III 来期に向けた所見

### III-1 チューター公募

後期のチューター公募を例年通り実施する。スケジュールは下記のとおりである。

8月29日(金)	応募書類受付締め切り
9月9日(火)	面接(尹先生、中野 SV、松井 ASV、林 ASV)
新学期開始日	着任

### III-2 生成系 AI への対応

生成系 AI が出力したと思われる文章をセッションに持ちこむ学生がおり、チューターが対応に困るケースが複数件見られた。セッションでは、中央大学における生成系 AI についての基本的な考え

方を学生に伝える、課題要件を学生に確認させるなどの対応をとっている。加えて、今後は生成系 AI に関する文献や資料を HP に載せ、自ら思考することの重要性を伝えていきたい。

### Ⅲ-3 出張ガイダンス時のワンポイント講座

Ⅱ-1-1 で述べたように、2025 年前期は 2 回、出張ガイダンス時にワンポイント講座を併せて実施した。学生へのラボの周知につながりやすいことと、教員からの一定の要望があると考えられるため、来学期以降は、実施期間や講座内容を定めただうえで、できる限り出張ガイダンス時のワンポイント講座実施の要望に応えていきたい。

以上

2025年8月28日

スーパーバイザー 中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー 松井雄志

アソシエイト・スーパーバイザー 林雅子

## 【別添Ⅰ】

### 2025年度 中央大学杉並高校セッション(前期) 実施報告書

担当チューター：田井 康平、西脇 祐、池内 陸

#### 1. セッション設置数と実績

- ・1セッション 40分、開室時間①15:45～16:25、②16:30～17:10、③17:15～17:55
- ・前期は36回セッションを設置（前年比、9セッション増加）
- ・稼働率は前期100%であった。

<2025年の稼働率>

月別	5月	6月	計
セッション設置数	18	18	36
セッション実績	18	18	36
稼働率	100%	100%	100%

※予約を元に集計。

#### 2. ワークショップ

テーマ：前年度に引き続き「問いの立て方」

参加者：32名

参加チューター：3名（田井チューター、西脇チューター、池内チューター）

- ・前年度と同様に、今年度も「フードロス」「ボランティア活動」「若者の投票率」の3つのテーマでグループ分けをし、各グループでブレインストーミングを行い、問いを深めてもらうというワークを実施した。
- ・どのグループも抽象的なテーマを具体的に絞り込むことには成功しており、頭の中を「見える化」し、テーマを「深める」というWSの趣旨としては十分に達成したと評価できる。
- ・ワークシートについて、最終的に各グループで決定した問いを記入する欄がなかったため、2枚目のワークシートの下に記入欄を設けたら良いのでは、という指摘があった。
- ・今回はワークショップ直前の修正で、スライド中の探究マップの具体例を一部省略した。次年度では、内容を改めて精査した具体例を作成する必要がある。
- ・今回は開始時刻の20分ほど前に到着したが、事前準備の時間がギリギリとなってしまった。机の移動や資料の配布、機器の接続等の作業に加えて、想定より多くの生徒が参加となったため、追加で机と資料を用意するなどの対応が少し遅くなってしまった。今後は、事前に参加人数を把握し、30分前には到着しておくようにしたい。
- ・その時期の生徒の悩みに沿ったワークショップテーマであったためか、アンケート結果も好評だった。  
「本日の講座は有益だったと思いますか。」という問いに対して、「強くそう思う」65.6%、「ややそう思う」34.4%という結果だった。

### 3. セッションについて

- ・今年度も、前年度と同様中杉の生徒が授業で使う Google Classroom から Google Meet に接続する形式のオンラインセッションと、実際にチューターが学校を訪れる対面セッションを併用した。
- ・開講は木曜日と金曜日で、基本的に木曜日を西脇チューターが、金曜日を田井チューターが担当する 2 名体制であった。
- ・前年度と同様、オンラインセッションは、中杉ミーティングルームで教員の PC を使って接続するか、自宅から通信を行う形で実施の予定であったが、結果としてほとんどの学生が学校から接続した。
- ・また、前年度は事前の課題配信をチューターが行っていたが、今年度は中杉の教員が課題配信を行う形に変更となった。前年度、チューターが課題配信の際に添付したドキュメントファイルが生徒側で表示されないという不具合があり、中杉の教員側でその実態が把握しづらいということもあったため、今回のような変更に至った。そのため、チューターのセッション前の作業としては、提出された課題を返却するのみとなった。

### 4. 所感

#### \* 今年度の生徒について

今年度の生徒はセッションへの意欲が高い傾向があった。担当の教員によると、比較的早い段階で予約がいっぱいとなり、枠が埋まった後もセッションを希望する生徒がいたほど好評とのことだった。

一方で、探求マップにおける問いの抽象度が高い生徒が多く、内容や方向性を決めかねている場合が多々見られた。また、教員に提出したところ現在のマップ全体を次のマップの左側にまとめてみてはどうかと指摘されたものの、右側をどうすればよいか分からないといった相談も多々あった。

その他、ネットを利用して調べ物をすることに慣れているため、便利なデータベースの紹介やネットでの論文や記事の調べ方を紹介すると、後は自力で調べていける能力のある生徒が多い印象を受けた。しかし、書籍等の紙媒体の資料を探して手に取るということについては、どのように取り掛かればよいか分からないという生徒が多数であった。

#### \* マニュアル作成や初回セッション前の情報共有について

前年度、Google Meet 等セッションに必要となるアプリケーションや機材などの運用方法、探求マップの扱い、セッションの進行についてまとめたマニュアルを作成し、それを用いて新しく着任したチューターへの引き継ぎを行なった。そのため、今年度はスムーズに引き継ぎをすることが出来た。適宜加筆を加えてより効率的に引き継ぎが出来るように努めたい。

#### \* オンラインセッション中の双方向編集の難易度について

オンラインセッション中は生徒が学校の PC を用いることが圧倒的に多いため、双方向の編集が難しい場合が存在する。どのような機材を用いて学生がドキュメントに入力を行っているかチューターから判別できないため、問題が生じているのかの把握も難しい。

以上

## 【別添 2】

### 中央大学附属高校ワークショップ 実施報告書

担当者：松井雄志 ASV、中尾友香、田井康平、西脇祐、朴シウン

#### ワークショップ

テーマ：「90分でわかるレポート作成のコツ」

実施日時：4月18日(金)17:00~18:30

場所：中央大学多摩キャンパス

参加者：9名（高校3年生、選択科目「Global Project」履修者）

#### ・「Global Project」について

国際交流や国際体験、語学能力の運用を通じて柔軟に自身の考え方や価値観を変化適応させていくことをねらいとしている授業。レポート作成あり。

#### ・要望

アカデミック・ライティングの基本やポイントについての説明。  
とくにパラグラフ・ライティングの考え方や実践方法について。

#### ・ワークショップの内容

##### 1. 「問いの立て方」について。

レクチャー後、「自転車の普及率」というテーマから問いを深める活動を行った。

##### 2. 「パラグラフ・ライティング」について

中心文と支持文に注目し課題文の「パラグラフ」を整えた。

#### ・アンケート結果

「本日の講座は、有益だったと思いますか。」という質問に対して「強くそう思う」が6名、「ややそう思う」が3名だった。そう思った理由では「卒論を書くに当たって、テーマ決めの仕方などがわからず困っていたから」など「卒論」という言葉を用いている生徒が5名いた。

#### 【所見】

前年度とは異なり、ワークショップ後に卒論に関する質問をしてくる生徒はいなかったが、アンケート結果から卒論に関してラボへのニーズが見られた。

以 上